



EDILKAMIN

TECNOLOGIA DEL FUOCO

IDRO SALLY



取扱説明書

※この説明書は初めてご使用になる前に必ずお読み下さい。

目 次

第1章 設置について	3
1-1 はじめに	3
1-2 ペレットストーブボイラーの構造、運転について	4
1-3 安全にお使い頂くために	5
1-4 各部の寸法について	6
1-5 電装について	7
1-6 テクニカルデータ	8
1-7 各安全装置について	9
1-8 ペレットストーブボイラー配管図	10
1-9 ポンプの動作について	12
1-10 設置について	14
1-11 可燃物との距離	14
1-12 外装の組み立てについて	16
1-13 温水配管の接続について	19
1-14 最初の点火時について	21
第2章 操作について	22
2-1 ボタン、ディスプレイ説明について	22
2-2 動作機能について	23
2-3 言語の設定	24
2-4 時刻の設定	24
2-5 タイマー機能について	25
2-6 ペレットリザーブ（ペレット残量表示）について	27
2-7 緊急時操作ボタンについて	28
2-8 アラームについて	29
第3章 メンテナンスについて	32
3-1 毎日のメンテナンス	32
3-2 一週間に一度のメンテナンス	33
3-3 一月に一度のメンテナンス	33
3-4 シーズンオフのメンテナンス	34
確認事項 及び 注意事項	35
設置と接続について	35
使用前の注意	35

第1章 設置について

1-1 はじめに

このたびはEDILKAMINのペレットストーブボイラーをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。ご使用前に、この取扱い説明書を必ずよくお読みの上、製品を正しく安全にお使い下さい。本説明書の中でご不明な点がございましたら、お買い求め頂きました販売店へお問い合わせ下さい。

—お使いになる前に—

商品を梱包から取り出したら、付属部品が揃っているかご確認下さい。

- 1) セラミック外装と取手、 2) エアー抜き用シリコンチューブ、 3) 手袋とヘラ、
- 4) 除湿剤、 5) 取扱説明CDと保証書、 6) 梱包物確認記載書

—設置と試運転—

ペレットストーブボイラーを設置する際は法令・省令・施行令など関係諸法を遵守し、安全で正しい設置計画に基づいた設置を心掛けて下さい。また、EDILKAMIN製品の設置と試運転は、必ず販売店もしくは専門業者に依頼して下さい。

ペレットストーブボイラーのご使用に当たって、設置が適切に行われ、正常に機能していることを確認します。



- ・このストーブボイラーは弊社ペレットストーブ設置基準などに基づき、必ず排気管を取り付けてからご使用下さい。また高気密住宅、及び換気扇のある部屋では給気筒を取り付け、外から給気するようにして下さい。排気管を取り付けずに使用すると一酸化炭素中毒など重大な危険がありますので、絶対にしないで下さい。



- ・不適切な設置、正しく行われていないメンテナンスによる不具合、不適切なストーブボイラーの使い方によって起こりうる損害に対して、EDILKAMIN社及び北越融雪株式会社は、その責任を負いかねます。

- ・製品製造番号等は製品の製造に関するデータを示す大切なもので以下の部品に示されています。

- 梱包ボックスの上側
- 燃焼炉の中に入れてある製品保証書
- ストーブボイラーに貼り付けてあるプレート

上記の製品製造番号の記載された書類は大事に保管して頂き、万が一の故障、部品交換時などにご提示下さい。

EDILKAMINペレットストーブボイラー輸入元



北越融雪株式会社

〒948-0008 新潟県十日町市尾崎221番地2
TEL (025) 755-5855 FAX (025) 752-5074

以下のペレットストーブボイラーは89/106/CEE基準に適合しています。

温水暖房型ペレットストーブボイラー： 名称 IDRO SALLY (イドロ サリー)

製品番号：後部プレートに表示 製造年：後部プレートに表示

EDILKAMIN及び北越融雪株式会社は本製品の不適切な設置や使用、改造、純正以外の部品との取替え等により生じた損害について責任を負いかねます。

1-2 ペレットストーブボイラーの構造、運転について

温水暖房型ペレットストーブボイラー(IDRO SALLY)は設置した部屋を暖める温風ストーブの機能を持っている他、ペレットを燃焼させた熱で温水を作り各部屋に付けたパネルヒーターや床暖房などの温水循環暖房ができるボイラー機能も持っています。

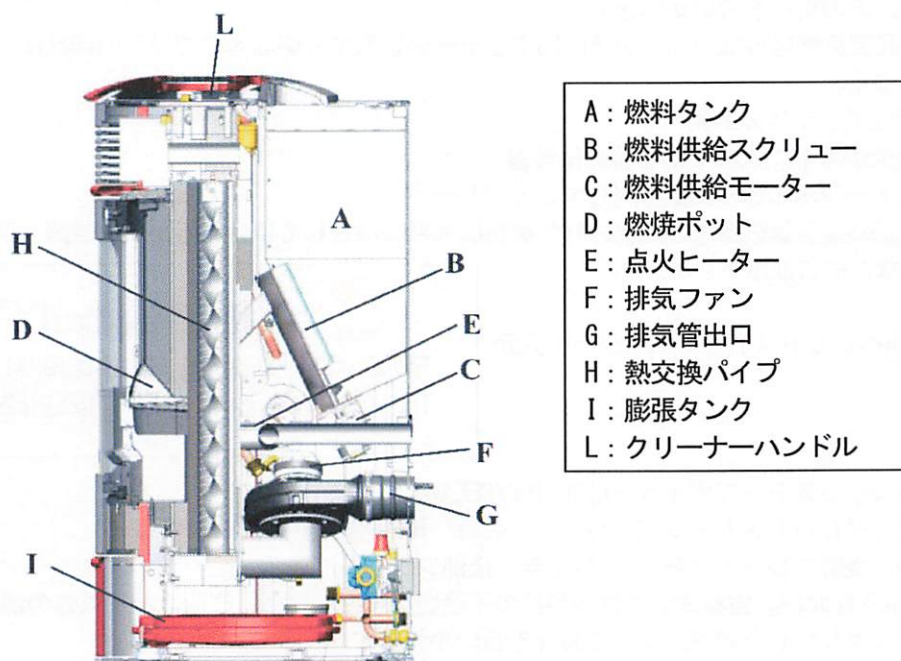
燃料タンク (A) は、ストーブボイラーの後方に位置しています。ペレット燃料は燃料タンク (A) から燃料供給モーター (C) によって回転するスクリュウ (B) を通じて燃焼ポット (D) へ運ばれます。点火ヒーター (E) で高温化した空気の流れが排気ファン (F) によって引き込まれペレット燃料に着火します。ペレット燃料の燃焼によっておこる排気ガスは排気ファンによって排気管 (G) を通過してストーブ後部下側から排出されます。ストーブボイラーによって生成されたお湯はボイラーに内蔵された循環ポンプで暖房用設備へと送られます。ボイラーには密閉式膨張タンク (I)、安全弁が内蔵されています(密閉膨張タンクについてはシステム水量により、膨張量に見合う適切な機種を別設置する必要がありますのでご注意ください)。燃料供給量、排気ファン回転数、燃焼給気量、温水循環は制御盤によって調節されており、高効率燃焼と排気ガスのクリーン化を実現するレオナルドシステムが搭載されています。

IDRO SALLY に操作パネルはついておらず、付属のリモコンによってすべての調整設定を行います。温風ファンを止めることができ、静かな自然対流暖房が可能です。熱交換パイプ (H) のスス掃除はクリーナーハンドル (L) を上下に動かすことによって行います。

運転方法

温水の温度設定(平均水温 70℃推奨)はリモコンで行います。また、ストーブボイラーの燃焼及び火力は温水の戻り温度をみて制御されています。設定した温度になるまで手動もしくは自動的に火力調節を行い、設定した温度の温水を作ります。

ECO モードによる運転も可能で、初めはフル稼働しますが、設定温に近づくと ECO モードに切り替わり徐々に火力レベルを下げていきます。燃料を節約しながら設定温を維持するよう自動的に消火、再着火を行います。



1-3 安全にお使い頂くために

- ・ お使いになる人や他の人への危害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために以下のことをお守り下さい。
- ・ 本書文中の※マークは本機を正しく使用して頂くための内容が記載されています。

 禁止	この記号はしてはいけないこと「禁止事項」を表しています。重大事故につながる恐れがありますから、絶対に行わないで下さい。
 警告	この表示を無視して、誤った取扱をすると、死傷事故や火災発生の可能性が想定されることを表示しています。十分注意して下さい。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱をすると、人への傷害や物的損害の発生が想定されることを表示しています。

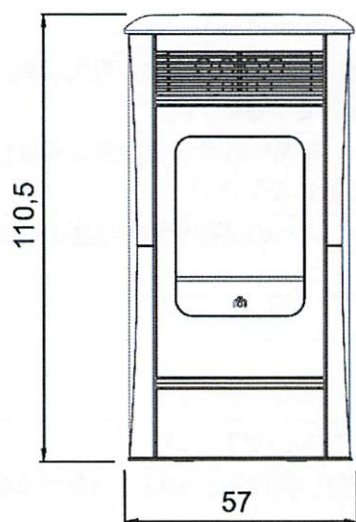
 禁止	
・ 屋外に貫通する排気管が必要です。排気管を取付けずに使用しないで下さい。 ・ 定期的な排気筒掃除が必要です。適切なメンテナンスなしに使い続けると火災につながる危険がありますので、製品を排気筒の掃除なしに使い続けしないで下さい。 ・ ストープの着火時に液体燃料を使用しないで下さい。 ・ ストープの排気、給気口を塞がないようにして下さい。	

 警告	
・ ストープボイラーの設置は必ずメーカー指定の販売店、または専門業者に依頼し、設置基準を遵守して行って下さい。 ・ 燃料は販売店が推奨する木質ペレット燃料以外の燃料を使用しないで下さい。 ・ 排気管、その他ストープボイラーの排気部品を発火性のある液体などで掃除をしないで下さい。 ・ ストープボイラーの周りには熱に弱い物を置かないようにして下さい。 ・ 排気管と給気管の口径を狭めるようなものを付けしないで下さい。 ・ 内部の電気部品を触る時は、必ず電源を抜いて下さい。 ・ 着火を失敗して一度燃焼ポットに溜まったペレットを燃料タンクに戻さないで下さい。	

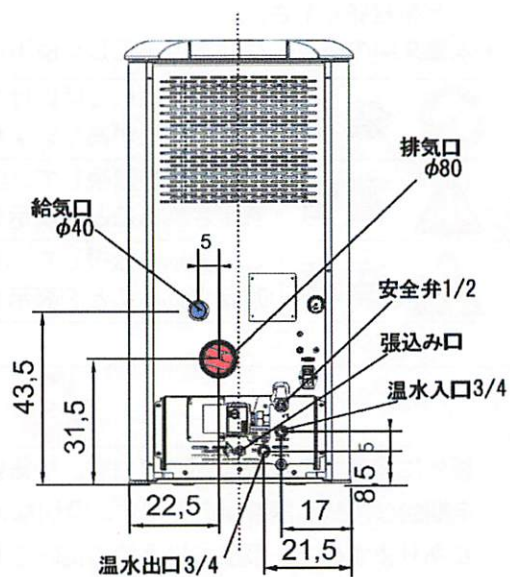
 注意	
・ 使用中はやけどの危険性がありますので、前面ガラス、排気管、温風ファングリルなどに触らないで下さい。 ・ 燃焼炉内、または燃料タンク内の掃除は必ずストープボイラーが冷めている時にして下さい。 ・ 扉ガラスの掃除は必ずストープボイラーが冷めている時に濡れ雑巾などで行って下さい。 ・ 運転中、排気管とストープボイラーの前面ガラスの温度は非常に高くなり、やけどする恐れがあります。本体が熱い時には必ず付属の手袋を使用して下さい。 ・ ストープボイラーを水で濡らさないで下さい。また濡れた手で電気部品を触らないで下さい。	

1-4 各部の寸法について

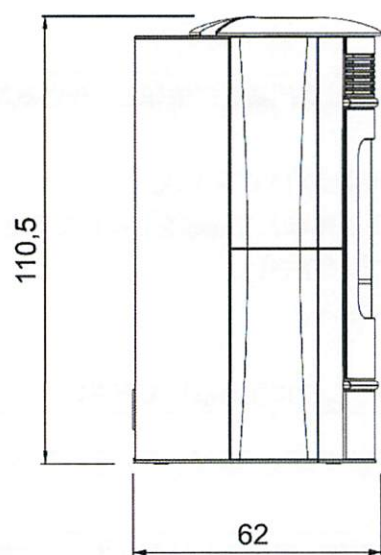
正面



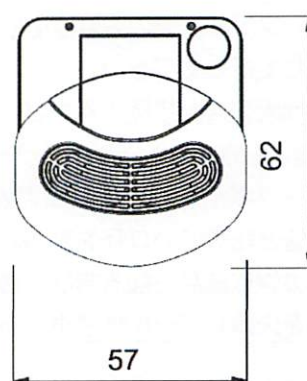
後面



側面



上面



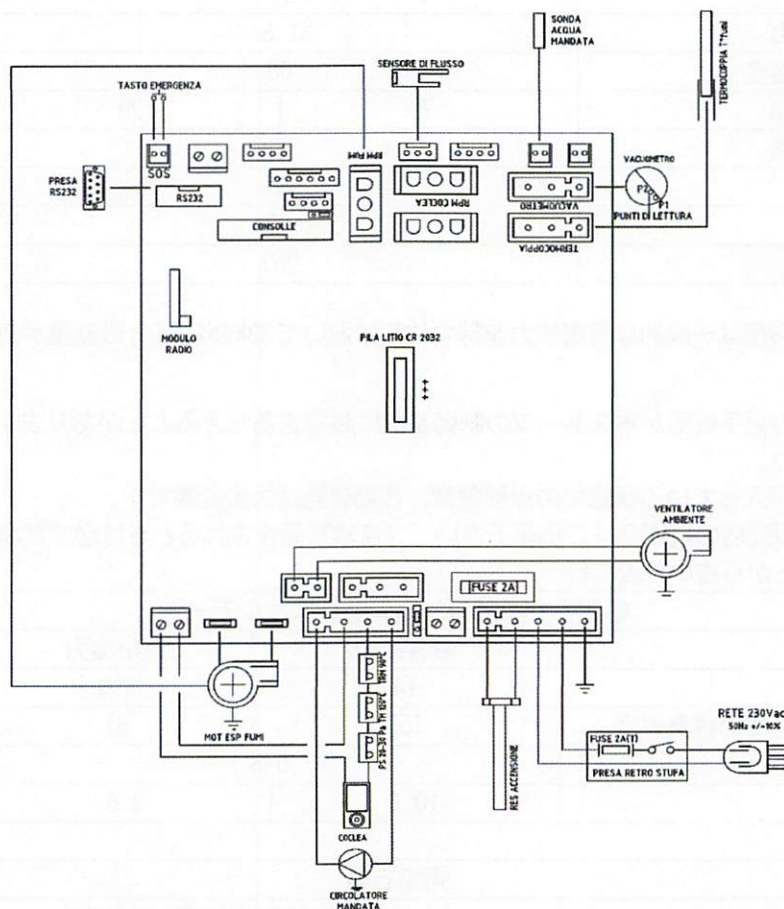
1-5 電装について

本機にはレオナルドシステムが搭載されています。

レオナルドシステムとは木質ペレット燃料の最適な燃焼状態を保つ機能です。2つのセンサーで常に燃焼状態の測定を行い、自動的、かつ連続的に排気温度と燃焼炉の差圧を測定し、パラメーターを自動調整します。また、排気管の設置条件（エルボー管の数、排気管の長さ、形、内径など）や外気環境（風、湿度、気圧など）によって変わるドラフトを最適化調節し、ベストな燃焼状態を作ります。ペレット燃料の種類によって変化する燃焼状態に自動対応し、徐々に排気ファン回転数を調節するなど、それぞれのペレット燃料の完全燃焼の状態を作り上げます。(Leonardosystem®)



制御基盤



バックアップ電池

- ・制御基盤にはバックアップ電池が付いています。(CR2032 3 volt)
- ・通常このバックアップ電池が消耗した場合、`Battery Check` の表示が出ます。
これは製品寿命によるものです。(製品不良とは見なされません。)
- ・詳しくは販売店までお問い合わせ下さい。

1-6 テクニカルデータ

仕様			
	最大出力	最小出力	単位
燃焼出力	14	3.9	kw
温水変換出力	11	2.5	kw
温風変換出力	3	1.4	kw
熱交換率	91.6	97.6	%
一酸化炭素排出量	0.01	0.025	%
排気温度	129	56	°C
燃料消費量	3.2	0.8	kg/h
ドラフト	12-5	10-3	Pa
ペレット燃料タンク容量	25		Kg
保有水量	12		リットル
最高使用圧力	1.5		bar
最高使用水温度	90		°C
連続運転時間	7	28	時間
暖房可能容積	365		m ³
排気管口径	80		mm
給気管口径	40		mm
梱包込重量	257		Kg

※暖房可能容積は一般的な暖房能力を持つ住宅において 33kcal/m³/h の熱量が必要として算出しています。



1) 周囲の電子機器が本ストーブの制御基盤に障害をあたえることがありますのでご注意ください。



2) 電源が入っている状態での点検整備、作動確認は大変危険です。
必ず販売店の技術者にご依頼下さい。(点検整備をされるときは必ず電源コードをコンセントから抜いた後に行ってください。)

排気管サイズのためのテクニカルデータ			
	最大出力	最小出力	単位
燃焼出力	14	3.9	kw
排気出口部分での排気温度	155	67	°C
最低ドラフト	0-5		Pa
排煙量	10.6	3.6	g/s

電気容量	
供給電力	AC 100V +/-10% 50/60Hz
平均消費電力(通常運転時)	120w
最高消費電力(着火時)	400w
リモコン(周波数)	Radio wave 2.4GHz
制御基盤保護ヒューズ	T2A, 250Vac, 5×20

上記の数値は予告なく仕様ならびに装備を変更することがありますので、ご了承下さい。

1-7 各安全装置について

IDROSALLYには各種の安全装置やセンサーがついています。センサーが危険を予測したり、あるいはセンサーが感知できないなど、ユーザーの安全を確保できない時にはアラームやメッセージを表示し、「停止」します。(メンテナンスを促すメッセージなどの場合は停止しないでメッセージのみ)



注意：アラームによる停止は機器の故障を表示するだけではありません。一部故障も表示しますが、センサーが「危険」もしくは、「安全を確保できない」と判断した場合に「停止」します。アラームが頻発する場合は販売店にご相談下さい。

・排気温度センサー

排気ファンに装着されており、排気温度を測ります。パラメーターに設定されたデータを着火時、運転時、消火時に感知します。

・給気流入センサー

排煙の流れの負圧度に問題があり、燃焼用の空気の流れに異常があると、給気口にあるセンサーが働き、ストーブを消火させます。

・安全温度センサー

ストーブ内部の温度が異常高温になるとペレット供給をストップさせ、消火します。

・水温センサー

水温を計測しその情報を制御盤へ送り、ポンプとボイラー出力調節を行います。もし水温が上がるとアラームを発生し消火させます。

・水温安全センサー

ボイラー内の暖房水温を検出します。暖房水温が異常に上がると、モーターへの電源供給を停止し、消火します。センサーが作動し消火した場合、再着火はボイラー背面のキャップ(図1-C)を外し、リセットボタンを押して下さい。

・安全弁(3bar)

暖房水の圧力が基準圧力を超えると、暖房配管内の温水を正常圧力になるまで排水します。
注意：設置時に排水管の接続をして下さい。

・負圧センサー

燃焼室のドアが開いていたり、強風による排気障害、排気管の詰まりなど、燃焼炉の負圧度が正常でない時に作動し、ペレット供給を止め、アラームを発生させます。

・バキュームメーター

燃焼炉内の負圧度を検出します。

・循環ポンプ

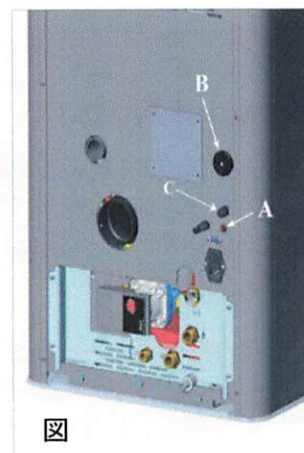
温水を暖房器具へと循環させます。

・膨張タンク

温度変化による循環水の膨張量を吸収調整するためのタンクです。配管及びボイラー内など系統経路の総保有水量により膨張量が決定されます。

・圧力計

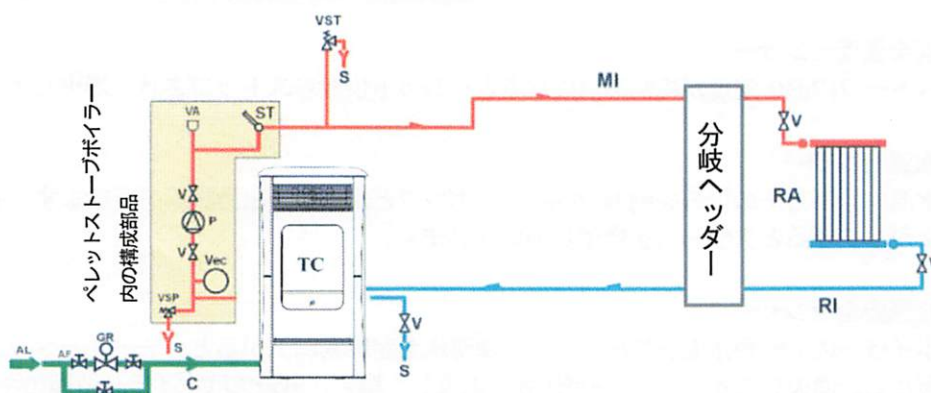
上面前方に取付けられています。(図 1-B) ボイラー内の温水の圧力を検出します。稼働中のペレットストーブボイラーの温水圧力は 1.5bar 以下をお奨めします。



図

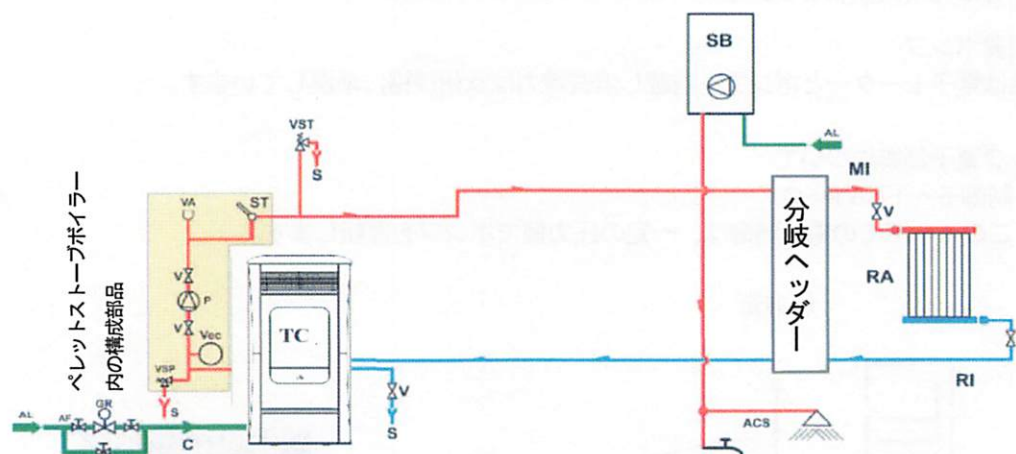
1-8 ペレットストーブボイラー配管図

ペレットストーブボイラーを熱源とした暖房配管図(例)



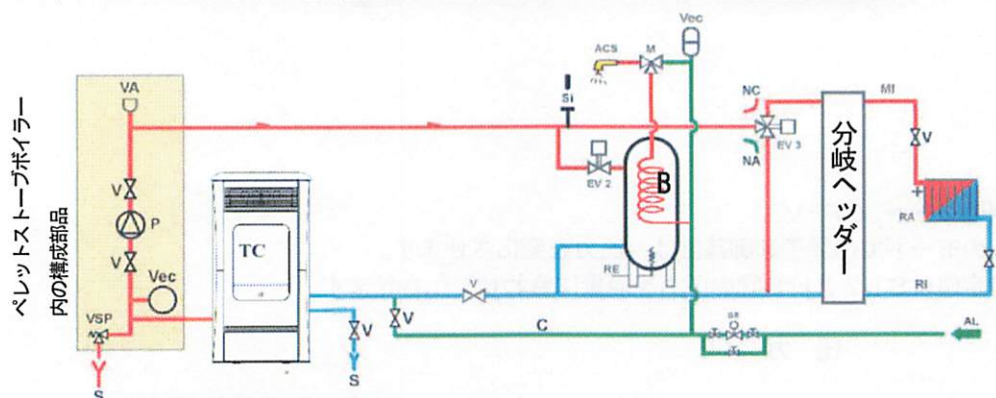
AF:給水 AL:水道 C:給水管 GR:減圧弁 MI:温水(送り) P:循環ポンプ RA:パネルヒーター RI:温水(戻り) S:水抜きドレイン ST:温水温度センサー TC:ペレットストーブボイラー V:ボールバルブ VA:自動空気抜き弁 Vec:密閉式膨張尾タンク VSP:安全弁(本体) VST:安全弁

ペレットストーブボイラーと給湯機を別熱源にした暖房配管図(例)



ACS:衛星用器具用給水 AF:給水 AL:水道 C:給水管 GR:減圧弁 MI:温水(送り)
P:循環ポンプ RA:パネルヒーター RI:温水(戻り) S:水抜きドレイン SB:給湯器
ST:温水温度センサー TC:ペレットストーブボイラー V:ボールバルブ VA:自動空気抜き弁
Vec:密閉式膨張タンク VSP:安全弁(本体) VST:安全弁

ペレットストーブボイラーを熱源として温水貯湯タンクを利用した暖房配管図(例)



ACS:衛星用器具用給水 AL:水道 B:温水貯水タンク C:給水管 CE:電子制御盤 EV2:電動二方弁
EV3:電動三方弁 NA:通常は開いている NC:通常は閉まっている GR:減圧弁 MI:温水(送り)
P:循環ポンプ RA:パネルヒーター RI:温水(戻り) S:水抜きドレイン TC:ペレットストーブボイラー
V:ボールバルブ Vec:密閉式膨張タンク VSP:安全弁(本体)

※これらの図面は1つの例に過ぎませんので、施工の際は水道専門業者にお尋ね下さい。

1-9 ポンプの動作について

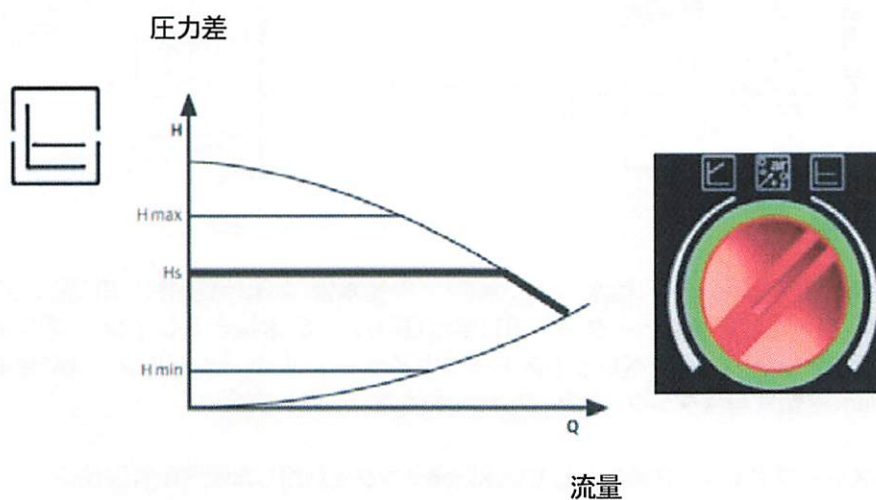
低消費ポンプ

製品は電子モーターとポンプを搭載し消費電力は欧州規格に準拠しています。

ポンプ電子制御について

a) 制御モード $\Delta P-C$

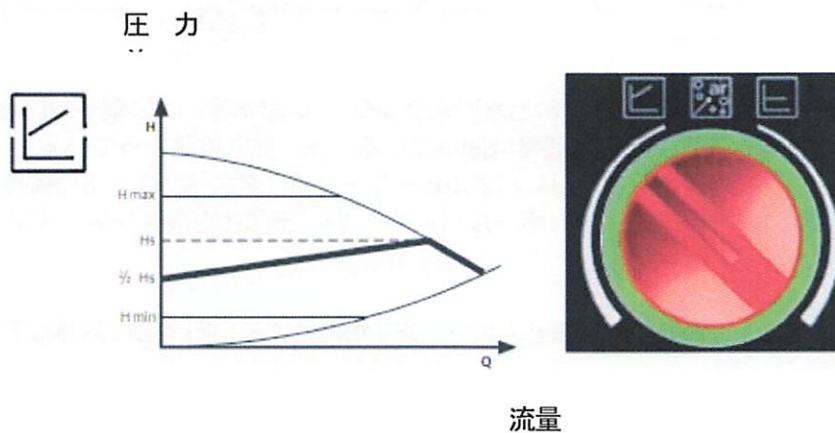
このモードでの電子制御は、一定の圧力値でポンプを運転します。



b) 制御モード $\Delta P-V$

このモードでの電子制御基盤は、圧力を変化させます。

設定値 $Hs/2$ と Hs 間の圧力を流量に合わせ変化させます。

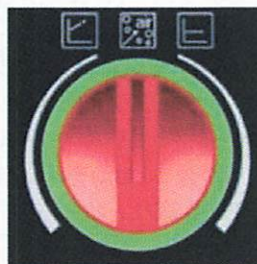


c) エアー抜きモード

この手順では、温水配管内の空気を排出することができます。

ポンプモードのつまみを『air』に選択し、リモコンメニューのテストよりポンプを選択することでポンプが交互に最大と最小の速度で 10 分間運転します。

その後、使用する動作モードに設定して下さい。



LED の意味と対処方法

LED	緑LED 点灯	緑LED 早い点滅	赤と緑LED 点滅	赤LED 点滅	LED OFF
意味	ポンプ運転中		ポンプは動作する準備はできているが動作しない	ポンプ使用不可能	ポンプOFF
運転状態	ポンプは設定に従って運転します。	ポンプが 10 分間のエアー抜き運転を行います。 その後、使用するモードに設定して下さい。	問題を解決できればポンプは自動的に運転を始めます。	ポンプ停止	ポンプへの通電なし
原因	通常運転	通常運転	- 低電圧UK160 - 高電圧U>253V - 異常過熱 モーター部の温度が高すぎる。	ポンプが自動的に再稼働しない。	- ポンプの電気接続の確認 - LED の故障 - 電子機器不良
対処方法			電圧が 195V 以上 253V 以下であることを確認	ポンプの交換	- コンセントに電源接続されているか確認 - ポンプの動作を確認する - ポンプを交換する

1-10 設置について

設置場所

- ・ペレットストーブは気密性が高い部屋で換気扇を使う場合は FE 式(室内給気式)で使用しないで下さい。FF 式での設置を行って下さい。

FF(外気給気)と FE(室内給気)方式

- ・このストーブは室内給気と外気給気どちらでもできるように設計されています。
- ・室内から給気できる場合はそのままいいですが、外気を給気する (FF) 場合は給気ダクト(直径 40mm)をそのまま壁を通し外に出すか、または給気口へ外気を取り込む壁抜き用二重管などに連結させて下さい。

- ・高気密高断熱住宅で 24 時間換気や第三種換気の住宅の場合、換気扇を回すと室内の空気が負圧となり、その結果不完全燃焼を起こし、アラームが発生することがあります。高気密住宅で使用する場合は十分な給気量を確保できる給気口がストーブ周辺にあるなど、換気扇による負圧防止対策を取って下さい。

正しい電気接続のために



- ・電源は家庭用 AC 100V 50/60Hz です。コンセントはアース付のものにして下さい。延長コードやタコ足配線は危険です。また、電源コードが排気管に接触しないようにして下さい。



- ・電源プラグを 200V のコンセントに差し込まないで下さい。感電、火災、故障の原因になります。



- ・10%以上の電圧の上昇はストーブを故障させる原因となります。ご注意ください。

1-11 可燃物との距離



- ・ストーブボイラーの後部、両側に可燃物質の壁がある場合、以下のように距離を離して下さい。特に排気管の温度は熱くなるので十分に配慮して下さい。



- ・後と横の壁が可燃物質(木造など)の場合は、後 10cm 以上、左 20cm 以上、右 20cm 以上の隔離距離が必要です。ただしメンテナンス時には背面及び側面パネルを外す必要がありますので、側面の隔離距離は 60cm 以上あけるようお勧めします。



- ・後と横の壁が不燃物質(コンクリートなど)の場合、後 10cm 以上、左 20cm 以上、右 20cm 以上の隔離距離が必要です。ただしメンテナンス時には背面及び側面パネルを外す必要がありますので、側面側は十分な隔離距離をあけて下さい。



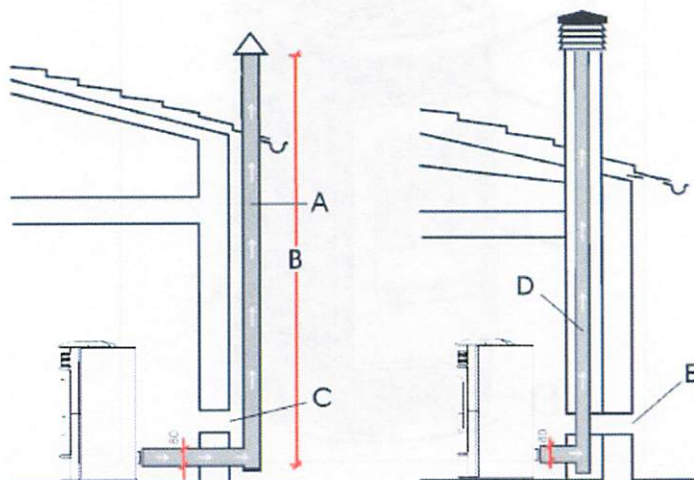
- ・ストーブボイラーの前は燃焼炉の輻射熱が強いので 80cm 以内に可燃物を置かないで下さい。また、ペレット燃料は本体上部のふたを開けて補給します。上部には 80cm 程度の空間が必要です。



- ・床面が木質フローリングなど可燃物質の場合は、燃焼室扉の開閉によって火の粉の落下など、危険防止のために金属など不燃材プレートを設置をお勧めします。

排気管の設置基準

- 
 ・ペレットストーブボイラー排気管はメンテナンスが必要です。後々のメンテナンスが可能な施工法と場所及び部材を採用し、年に一度は排気管内の灰とススを掃除して下さい。特にエルボー管など屈折部には灰が溜まり易いのでよく確認して下さい。
- 
 ・着火時には排気口から白煙が出ます。微量のススや灰も排出されます。排気口の近くに換気扇や換気システムの給気口がある場所は避けて下さい。また、隣家への影響も十分考慮して下さい。
- 
 ・1台のストーブボイラーに対して1本の排気管を設けて下さい。(2台のストーブの排気を1本の排気管につなげることはしないで下さい。)
- 
 ・排気管はメーカーが推奨する排気漏れを防ぐ耐熱シリコンなどを排気管の接続部に使用して下さい。
- 
 ・ペレットストーブボイラーの排気管は立上げ配管を基本とし、立上げ距離は最低 1.5m 以上、概ね 2m 程度を目安とし、排気出口は必ず屋外に設けて下さい。
- 
 ・横引き配管は立上げ距離との比率が2分の1以下とし、エルボーなど配管の曲がり回数は3曲がり以内として下さい。横引き部、屈折部を多くするとスムーズな排気を妨げ、灰詰まりの原因となり、正常な運転を妨げる原因となります。
- 
 ・屋内立上げにおける可燃壁面と排気管との距離について、一重管の場合は150mm 以上離して下さい。ただし断熱効果の高い二重管、中空二重管、給排気管についてはこの限りではありません。設置要領などに従って下さい。
- 
 ・排気口トップを風圧帯に設置するのは避けて下さい。建物の北・西面や海・川側、入隅や軒下などシーズン中強風にさらされる場所「風圧帯」には排気口トップを設置しないで下さい。正常な排気ができず、アラームの発生原因になります。
- 
 ・強風地域、もしくは強風が予想される場所へ排気口トップを設置する場合には、全周耐風対応の排気口トップ（オープンドラムトップなど）を使用して下さい。
- 
 ・基本的に屋内配管は鉄管で可能ですが、壁貫通管から屋外配管については、ステンレス製配管か防錆塗装を施した配管を使用して下さい。
また、寒冷地で排気管の屋外立上げをするときは排気管内の結露を防ぐため断熱2重管をご使用下さい。



A: 断熱2重管

B: 最低高さ 1.5m(それ以下だと万が一の停電時にドラフトが生じにくくなり、排気の逆流と設置部屋での不完全燃焼や排気漏れの原因となり危険です。)

C-E: 外部からの給気口(給排気壁抜き用2重管をご使用下さい。)

D: 既存する煙突を利用する場合

壁貫通基準

-  排気管を壁貫通する場合、断熱処理なしの一重管を絶対に壁貫通に使用しないで下さい。一重管で壁貫通する場合はめがね石等不燃性断熱材を設置するか、十分に断熱性能が確保された耐熱断熱材を使用して、貫通穴を全周覆い排気管の熱が直接触れぬよう配管して下さい。
-  壁貫通二重管もしくは給排気二重管を使う場合でも壁貫通部には不燃性断熱材を入れ、壁と配管が直接接触しないよう配管して下さい。
-  排気管、給気管等の壁貫通部から室内へ雨水などが入らないよう注意して配管して下さい。また、屋外立上げ管の排気トップも下向きにするなど、雨水が侵入しない対策を行なって下さい。
-  排気口トップと外壁の窓など開口部までは上方1m以上、側方15cm以上の離隔を取って下さい。また、FF配管をする場合は排気口トップと給気口との離隔を1m以上離して下さい。

1-12 外装の組み立てについて

図1

・サイドパネル(A-B), セラミック固定フレーム(C), 上部/下部パネル(D-E)

以下の部品は別梱包になっています。

サイドセラミック上部: 2(図3-F), サイドセラミック下部: 2(図3-F1)

下部セラミック: 1(図4-G), 上部セラミック: 1(図7-H), 天板セラミック: 1(図9-I)

ピン: 18, ワッシャー: 18, 下部セラミック取付金具: 4(G1), ビス: 4, ゴムパット: 6(M)

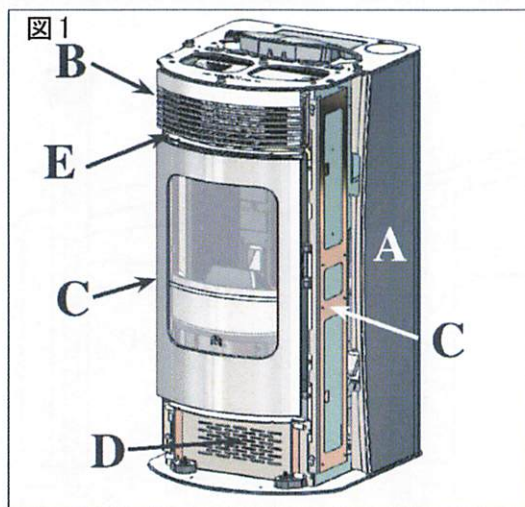


図 2

- ・セラミックサイドフレーム(C)を取り外して下さい。

図 3

- ・セラミック(F-F1)の穴とピンを使用してフレーム(C)に取り付けます。

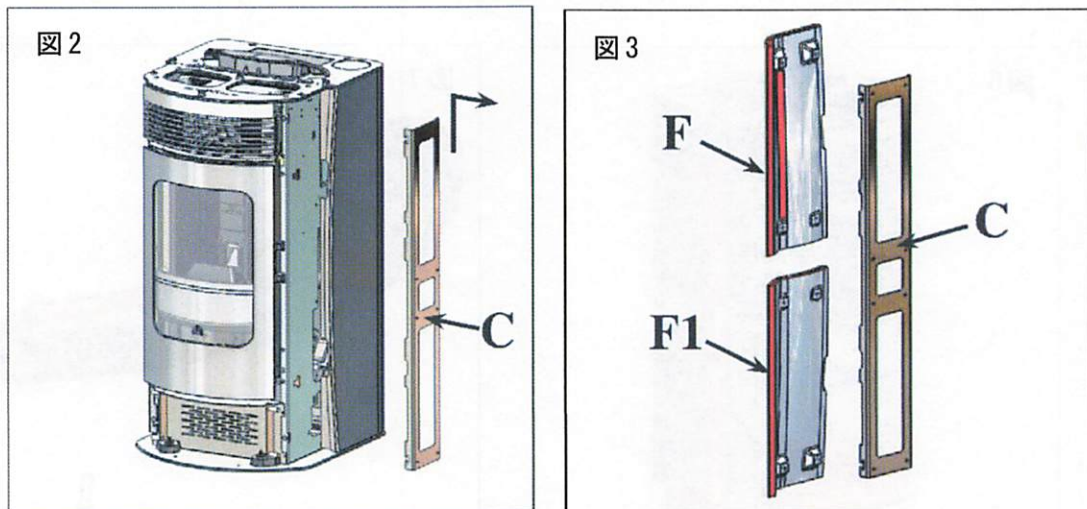


図 4

- ・下部セラミック(G)に取付金具(G1)を取り付けます

注意：取付金具は図4のようプレートを外側に向けて取り付けして下さい。

図 5

- ・下部セラミック(G1)の取付金具(G1)を前面プレートの(D)のピンに取り付けて下さい。

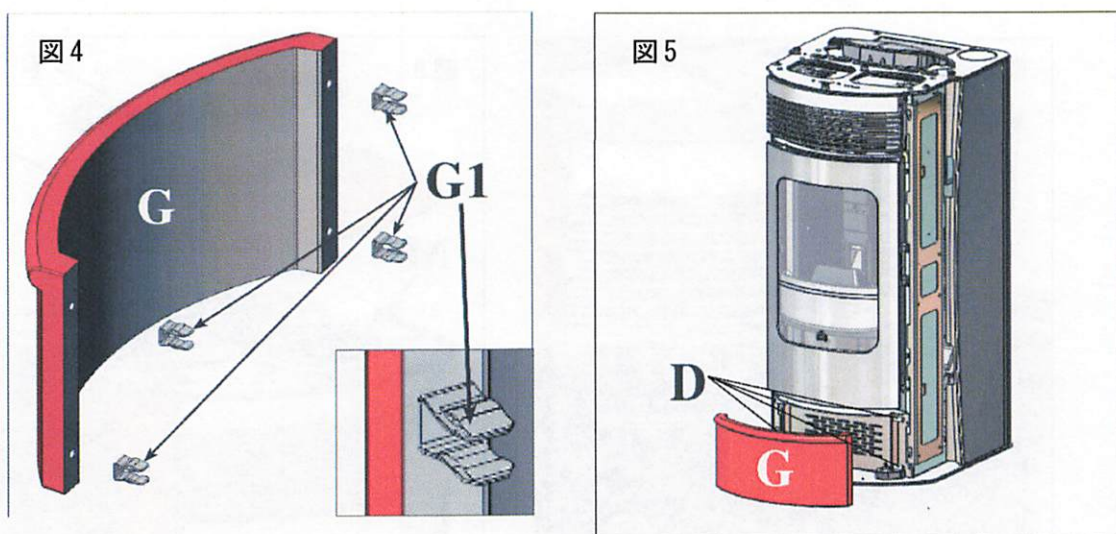


図 6

- ・ 図 3 のサイドセラミックを図 6 に取り付けて下さい。

図 7

- ・ 上部セラミック (H) にピン 2 本を軽く締めて下さい。

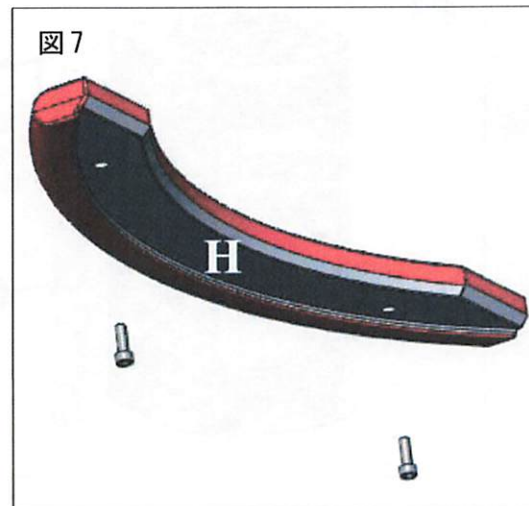
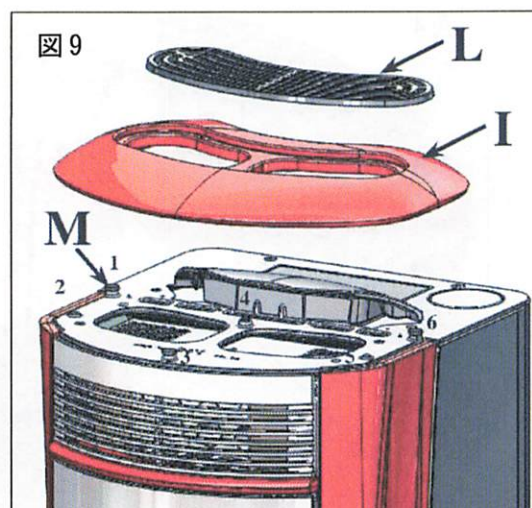
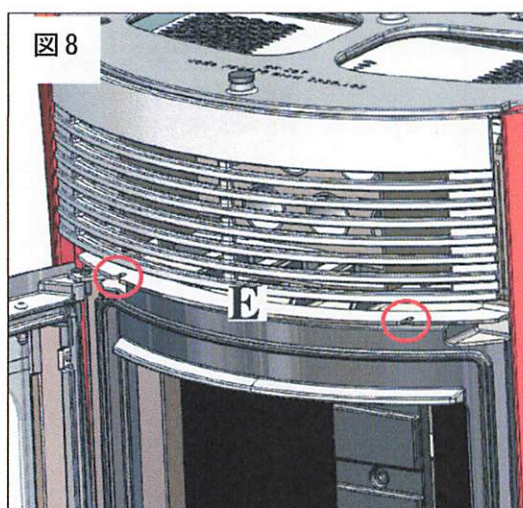


図 8

- ・ 扉を開きセラミック (H) を挿入し上部フロント (E) にピンを手で締めて下さい。

図 9

- ・ ゴムパッド (M) 付けて、天板セラミック (I) にグリル (L) を載せます。



1-13 温水配管の接続について

事前準備、確認事項

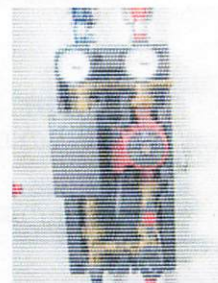
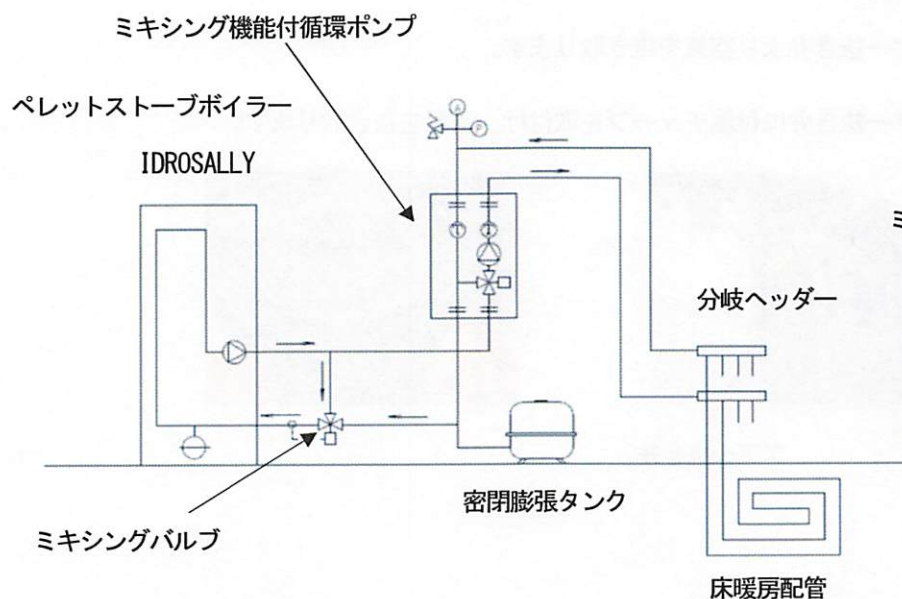


- ・ペレットストーブボイラーは温水配管の戻り温水温度を検知して火力設定を行います。温水配管無しではアラームが発生し、燃烧できませんので温水配管なしでは運転しないで下さい。



- ・温水配管との接続は管工事の専門的な知識と技術が必要です。施工される場合はエディルカミンの設置販売店に依頼して、専門技術者による施工を行って下さい。
- ・温風最高出力は 3kw、温水最高出力は 11kw となりますので、能力に合わせた暖房計画を行って下さい。
- ・IDROSALLY の缶体は鉄製の為、循環に使用する液体は防錆剤の入った液体（不凍液）を使用して下さい。
- ・工場出荷時に検査用不凍液が若干本体に残っている場合があります。不凍液がもし残っていた場合は、洗浄してから新しく使用する不凍液を注入して下さい。
- ・循環配管の戻り温度は、結露を避ける為に少なくとも 50～55℃にする必要があります。（出湯温度設定は 50～80℃）戻り温度が低温になる場合は、ミキシングバルブを設置して下さい。
- ・床暖房など 50℃以下の温水を循環する場合、ミキシング機能付循環ポンプを使用して下さい。

床暖房施工例



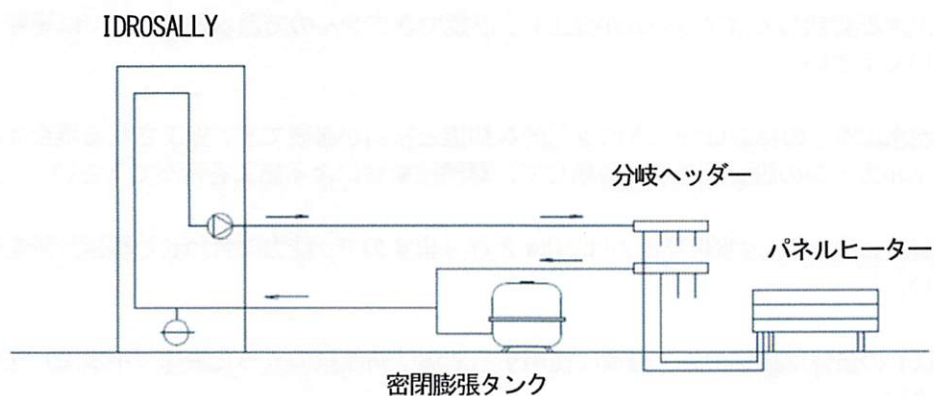
ミキシング機能付循環ポンプ



ミキシングバルブ

パネルヒーター暖房施工例

ペレットストーブボイラー



- ・ IDROSALLY に内蔵されている密閉型膨張タンクの容量は、暖房設備全体のシステム水量の膨張を全て吸収するものではありません。使用する暖房システムに合った暖房水の膨張量を計算し、適切な密閉膨張タンクを選定して下さい。
- ・ 本体に付属の安全弁の圧力は 3bar (0.3MPa) となっていますが、日本において配管をする場合、配管システムに合わせた安全弁を設置する必要があります。

エア抜き

- ・ 本体左のエア抜き弁より空気を抜き取ります。
- ・ 本体上のエア抜き弁に付属チューブを取付け、空気を抜き取ります。



エア抜き弁



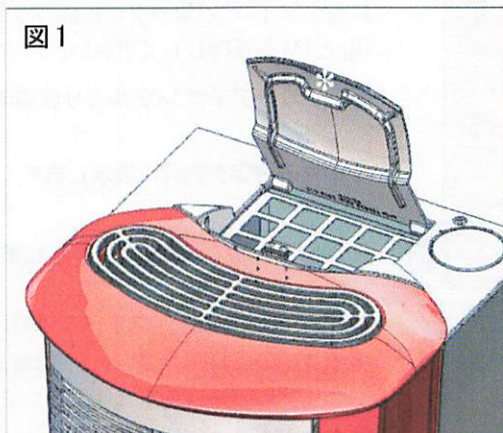
1-14 最初の点火時について

製品保証のためにも最初の設置、調整はエディルカミン販売店が行う必要があります。排気管の設置方法や、使用するペレット燃料の種類に応じてパラメーター調節（排気ファンの回転速度やペレットの燃料の供給量及び自動クリーニングの調節）をエディルカミン販売店が設置時に行います。エディルカミン販売店により設置が終わった後、製品保証登録を販売店が輸入元に行います。最初の点火後しばらく塗装の臭いがする場合がありますので、そのときは換気を行って下さい。

最初の点火前に以下のことを点検して下さい。

- ・正しい設置がされているかどうか、電源は間違いないか（AC 100V 50/60hz）、燃焼ポットに何も入っていないか、操作パネルディスプレイにECO STOPの表示がないかご確認下さい。（正常の場合は日時、火力、または温度表示が点滅します。）
- ・燃料タンクの蓋の前部分を軽く押してやると、開くようになっています。（図1-＊）
運転中でもペレット燃料をタンクへ入れる時にやけどをしないように手袋をご利用下さい。

図 1



- ・エアー抜きをする際は上部セラミックを取り外して行って下さい。（図 2-V）

図 2



第2章 操作について

(IDRO SALLY は付属のリモコンで全ての操作を行います。)

2-1 ボタン、ディスプレイ説明について

- ・  ボタン (着火、消火ボタン)
- ・  ボタン (数値の増減、メニュー移動ボタン)
- ・  ボタン (自動運転の切替ボタン)
- ・  ボタン (温風の運転切替ボタン)



- ・ アイコン点滅：リモコンはネットワークを検索しています。
- ・ アイコン点灯：リモコンの接続が有効になっています。



- ・ ロックアイコン(ロックまたはロック解除する場合は「M」と「A」を長押しして下さい。)



- ・ バッテリーアイコン(アルカリ乾電池単4：3本)



- ・ タイマー設定有効時に表示します。



- ・ 8の数字からなる文字表示がされます。



- ・ アイコンの点滅時：ストーブはON状態。
- ・ アイコンの点灯時：ストーブは着火作動中。



- ・ マニュアル運転時表示(リモコンディスプレイに火力が表示されます。)



- ・ 自動運転時表示(リモコンディスプレイに設定された温度が表示されます。)

ディスプレイは、上記アイコンの他、下記の情報を表示します。

- ・ OFF 状態時
- 現在の水温(°C)、残りペレット残量(kg)、現在の時刻(例 15 : 30)
- ・ マニュアル運転時
- 現在の火力(1~5)、現在水温(°C)、残りのペレット残量および残り稼働時間
- ・ 自動運転時
- 設定水温(°C)、現在水温(°C)、残りのペレット残量および残り稼働時間



※何度も  ボタンを押さないで下さい。

- ・ 操作が数秒間されない場合は省電力モードに移行し、ディスプレイは消灯します。ディスプレイが消灯している場合は、いずれかのボタンを押すことによってストーブに再接続することができます。

2-2 動作機能について

ペレットスクリュース単独操作

- ・初めストーブのタンクおよびペレットスクリュース内のペレットは空になっています。
- ・タンク内にペレット燃料を入れ **+** **-** ボタンを同時に数秒間押して下さい。
- ・ディスプレイに「LOAD」と表示されます。
- ・燃烧ポットにペレットが落ちてきたら **M** ボタンを1回押してキャンセルして下さい。



※着火する前に、燃烧ポット内を空にして下さい。燃烧ポット内のペレットはタンク内に戻さないで下さい。

自動着火

- ・ **⏻** ボタンを2秒間、押して下さい。最初に30秒間の試験動作を行いディスプレイに「START」と表示がされます。
- ・同時に、カウントダウンが始まります。(20分程度)着火、燃烧状況により数値は増減します。カウントが0になるとストーブはON状態になります。
- ・着火までに約5分かかります。

手動着火

- ・マイナス3度以下の寒い環境、または長期間ストーブを使ってない時、着火ヒーターが赤く熱を持たず、ペレット燃料にうまく着火しないときがあります。
- ・そのときは燃烧ポットに着火材などを入れて扉を閉め **⏻** ボタンを2秒間、押して着火して下さい。

消火方法について

- ・ **⏻** ボタンを2秒間押して下さい。ディスプレイ上に消火までの時間が表示されます。(数値は消火までの目安の時間です。)
- ・消火作業中はペレットの供給が止まり、排気ファンの回転数が最大になります。



※消火作業中は電源プラグを抜かないで下さい。

温風ファンの調整

温風ファンについての設定を行うことができます。

- ・ **A** ボタンを一回押して下さい。その後 **+** か **-** ボタンを押すことによってOFF、F1、F2、F3、F4、F5、AUTOと温風ファンのレベルの設定をすることができます。

火力調整

- ・リモコンの **A** ボタンを押して下さい。
- ・ **+** か **-** ボタンを押し、お好みの温水の温度を設定して下さい。(水温設定：50～80℃)
- ・ストーブは設定された温水温度に達すると火力を自動的に下げ、設定温を維持します。温水温度が下がるとまた元の火力に戻し、設定温水温度を維持します。

2-3 言語の設定

- ・リモコンの **M** ボタンを2秒間押して下さい。
- ・ディスプレイに「LANGUAGE」と表示がでます。
- ・リモコンの **M** ボタン1回押して下さい
- ・ **+** か **-** ボタンを押し言語の設定を行って下さい。
- ・標準は英語の設定になっています。(ENGLISH:英語、ITALIANO:イタリア語、TEDESCO:ドイツ語、SPAGNOLO:スペイン語、FRANCESE:フランス語)

2-4 時刻の設定

- ・リモコンの **M** ボタンを2秒間押して下さい。
- ・ディスプレイに「CLOCK」と表示が出るまで **+** か **-** ボタンを押して「CLOCK」が表示されたら **M** ボタンを押して下さい。
- ・ **+** か **-** ボタンを押し時刻設定を行って下さい。
- ・データが順番に表示され、調節することができます。(日、月、年、時、分、曜日)
- ・曜日はイタリア語で表示されますが、数字で判断して下さい。
1 LU(月曜日) 2 MA(火曜日) 3 ME(水曜日) 4 GI(木曜日)
5 VE(金曜日) 6 SA(土曜日) 7 DO(日曜日)
- ・設定するたびに **M** ボタンを押し設定を確定して行って下さい。
- ・最後のディスプレイ上に「SAVE?」と表示が出たら **M** ボタンを押して下さい。
- ・「SAVE OK」と表示に変わったら設定成功です。



・時刻設定はタイマー着火・停止の際、非常に重要なので確実に行って下さい。

2-5 タイマー機能について

※タイマー着火・消火は3つのプログラムを設定することができます。

- ・リモコンの  ボタンを2秒間押して下さい。
- ・  か  ボタンを押して「PROGRAM ON/OFF」が表示されたら  ボタンを押して下さい。
- ・操作が正しければ以下の表示がされます。
 - NO PROGR : タイマー設定なし
 - DAILY PROGRAM : 毎日タイマーの設定
 - WEEKLY PROGRAM : 週間タイマー（各曜日で）設定
- ・プログラムを切り替えるには  か  ボタンを押して下さい。

毎日タイマーの設定

- ・  か  ボタンを押して「DAILY PROGRAM」が表示されたら  ボタンを押して下さい。
- ・  か  ボタンを押すことにより1日のプログラム数を設定することができます。
- ・次に  か  ボタンを押すことにより、次のような表示がされます。
 - SELECT N° PROG (設定なし)
 - PROGRAM N° 1 (1日1回、着火・消火する場合)
 - PROGRAM N° 2 (1日2回、着火・消火する場合)
 - PROGRAM N° 3 (1日3回、着火・消火する場合)
- ・1日のプログラム数を決定して  ボタンを押して下さい。
- ・ディスプレイに「ALL 1 ON HOUR (着火する時間)」と表示されます。  か  ボタンを押して着火する時刻を設定して下さい。  ボタン押し次の項目に移動して下さい。
- ・ディスプレイに「ALL 1 ON MIN (着火する時間)」と表示されます。  か  ボタンを押して着火する時刻を設定して下さい。  ボタン押し次の項目に移動して下さい。
- ・ディスプレイに「ALL 1 OFF HOUR (消火する時間)」と表示されます。  か  ボタンを押して消火する時刻を設定して下さい。  ボタン押し次の項目に移動して下さい。
- ・ディスプレイに「ALL 1 OFF MIN (消火する時間)」と表示されます。  か  ボタンを押し

て消火する時刻を設定して下さい。 ボタン押し次の項目に移動して下さい。

- ・最後のディスプレイ上に「SAVE?」と表示が出たら  ボタンを押して下さい。
- ・「SAVE OK」と表示に変わったら設定完了です。

週間タイマーの設定

※タイマーを有効にする曜日の表示は例えば日曜日なら「7DO PROG N° 1」です。

曜日はイタリア語で表示されますが、数字で判断して下さい。

1 LU(月曜日) 2 MA(火曜日) 3 ME(水曜日) 4 GI(木曜日)
5 VE(金曜日) 6 SA(土曜日) 7 DO(日曜日)

- ・毎日タイマーと同じ要領で曜日ごとのプログラムを設定して下さい。
- ・着火、消火を選択するために  ボタンを押して曜日ごとの確認をして下さい。
- ・設定保存せずにプログラムを終了することができます。  ボタンを押し「NO SAVE」と表示されれば完了です。

2-6 ペレットリザーブ（ペレット残量表示）について

- ・ IDRO SALLY にはタンク内のペレットの残量をだまかな目安として表示する検知機能を取り付けられています。検出システムはペレットが何 Kg 残っていて、あと何時間位運転できるかだまかな目安を表示します。
- ・ システムを有効にする前に、タンク内にペレットを入れ、補給された燃料が尽きるまで、ストーブを使用する必要があります。
- ・ この後タンクいっぱいペレットをいれてストーブを起動させて下さい。
- ・ 燃料タンクには 15kg のペレットを入れることが可能です。「Reserve」と点滅されながらディスプレイ表示されます。
- ・ この時点でストーブに何 kg のペレットを入れたか記憶させる必要があります。

以下の手順を行って下さい。

1. **M** ボタンを 2 秒間押して下さい。「CLOCK」と表示されます。
2. 「RESERVE」と表示が出るまで **+** か **-** ボタンを押して下さい。
3. **M** ボタンを押して下さい。以下の図が表示されます。



その後追加したペレットの量(上記の例では 15kg)を **+** か **-** ボタンを押して決定して下さい。

4. 確認して正しければ **M** ボタンを押して下さい。
5. **⏻** ボタンを押してメニューから出て下さい。

※15kg を消費した後、上記の手順を完了した後に、「RESERVE」が表示されます。

2-7 緊急時操作ボタンについて

- ・ リモコン操作ができなくなった場合に下図のストーブの赤いボタンを押すことによってストーブの基本的機能に介入することができます。
- ・ 1回または複数回押してみてピッと音がするのを確認してから使用して下さい。

ストーブ OFF 時

2 秒間赤いボタンを押すとストーブは ON になります。

ストーブ ON 時

2 秒間赤いボタンを押すとストーブは OFF になります。

ストーブ ON 時(自動運転時)

赤いボタン押すごとに水温の設定を変更することができます。(50~80)



2-8 アラームについて

IDRO SALLYにはユーザーの安全を確保する為、各種センサーが付いていて、安全と燃焼に関する諸要因をチェックしています。

機器や部品の故障、燃料切れなど燃料に起因する不具合、強風や地震など自然現象起因の不具合、停電・漏電・雷・不正電流など電氣的な不具合、給気・排気に関する不具合、また設置工事の不具合や掃除不足が引き起こす不具合など、**安全が確保できないという理由で異常を感知した場合にも自動的に消火作業を行います（停止）。**

※ペレット燃料供給が止まり、排気ファンの回転数が最高にまで上がります。

その時、ディスプレイには問題の原因を表示します。（以下のアラームリストを参照）



- ・アラームが発生した場合、自動的に消火モードに移行しますから、電源プラグを抜いたり、電源スイッチを切らないで下さい。

室内に煙が漏れ一酸化中毒及び火災の原因になります。



- ・アラームが発生してストーブが消火モードに入った場合、完全にストーブの消火作業が終わってから再着火するようにして下さい。
- ・赤い非常ボタンを長押しすることによってアラームを解除できます。

- ・アラーム発生時はその原因を確認し、燃焼ポット内のペレット燃料を取り出し  ボタンを押して再着火して下さい。



※アラームを解除するとストーブが完全に OFF の状態になり、煙が部屋内に逆流する可能性があります。ストーブが完全にさめている状態で解除して下さい。再着火時には燃焼ポット内がきれいであることを確認して下さい。

アラームリスト

◆H2O PTC FAULT

原因：水温センサーの故障又は接続不良

対応：水温センサーと基盤との接続確認

水温センサーの作動確認（冷えている状態）

◆Verific/extract

原因：排気ファンの回転数に異常を感じた時に表示されます。

対応：排気ファンの状態を確認

：排気管の掃除状態の確認

：電気の設置状態を確認（アース接続はあるか）

：制御基盤の確認（販売店に依頼して下さい。）

◆Stop/Fire

原因：排気温度センサーがパラメーターに設定されている最低排気温度より低い温度を感知し、燃焼がうまくできていないときに表示されます。

対応：燃料タンクにペレットが入っているか確認

：ペレット燃料の過度の供給（販売店に調整を依頼して下さい。）

：最高排気温度の設定の確認、調整（販売店に依頼して下さい。）

◆Block-FI/NO Start

原因：スタートボタンを押して15分以内に点火しなかった場合、もしくは15分以内に点火確認温度まで（100℃）に排気温度が達しなかった場合に表示されます。

以下の2つの場合が考えられます。

- ・点火しなかった場合

対応：燃焼ポットの掃除と位置の確認

：着火ヒーターが故障していないか確認（販売店に依頼して下さい。）

：部屋の温度と湿度（3℃以下の場合には着火材の使用をおすすめします。）

- ・【Start】の表示の後、火が消え【Block FI/NO Start】が表示された。

対応：排気温度センサーの確認（販売店）

：パラメーターに設定されているスタート温度を確認する。（販売店）

◆Black Out

原因：停電によるストーブの停止

対応：コンセントが外れていないか確認して下さい。

◆Fault/RC

原因：排煙センサー壊れたか、所定位置から外れている時、表示されます。

対応：制御基盤からの配線の確認、冷間試験で機能の確認（販売店）

◆Smoke℃/high

原因：最高排気温度を超えて消火モードになった時に表示されます。

対応：ペレット燃料の種類の確認

：排気ファンモーターに異常がないか確認

：排気管に何か詰まっていないか確認

：正しい排気管の設置がされているか確認

：燃料供給モーターに滑りがないか確認

：正しく給気がされているか確認

◆Check Air flow

原因：煙突の詰まり

：給気口が詰まっている

：給気センサーが汚れている

：強風、逆風によって排気障害がおきている

対応：ストーブ、煙突のクリーニング

：給気センサーのクリーニング

：排気トップの改良・変更

◆Check button

原因：赤い非常ボタンに異常が発生した時に表示されます。

対応：ボタンと基盤との接続の確認（販売店）

◆H2O TEMP ALARM

原因：温水の温度が90℃を超えると表示されます。

対応：暖房負荷が特に小さい場合、ECO モード運転にしてください。(販売店の技術者)

：煙管（熱交換機）、煙突、煙突トップに詰まりの確認、クリーニング

◆Battery check

原因：バックアップ電池の交換時期になると表示されます。

対応：制御基盤の応急バッテリーを交換して下さい。

◆High current

原因：燃料供給モーターへの電流値が設定域の上限より高い値を感知した場合に表示し停止します。

対応：オーガモーターの確認

：配線間違いによるモーターの故障

◆Low current

原因：燃料供給モーターへの電流値が設定域の下限より低い値を感知した場合に表示し停止します。

：負圧センサーの介入

：燃料タンク温度センサーの介入

◆その他の不具合

問題：リモコンが動かない

対応：電池の交換

問題：温水温度が上がらない

対応：熱交換パイプの掃除

問題：着火時にヒューズが飛んで電源が切れる。

対応：着火ヒーターが湿っていないか確認

問題：点火しない

対応：燃焼ポットの掃除



- ・おおよそ 2500kg のペレット燃料を燃焼させると【Mainten dealer】と表示されます。これは専門業者によるメンテナンスを促す表示です。上記の方法では表示が消えませんが販売店にお尋ね下さい。パラメーターメニューに入らないと表示が消えないようになっています。



- ・赤い緊急ボタンを押すまですべてのディスプレイ表示は消えません。問題を解決するまではストーブの再着火しないで下さい。



- ・内部の部品を確認するときは必ずストーブの主電源を OFF にし電源プラグを抜いて下さい。

第3章 メンテナンスについて

ペレットストーブボイラーの最大の特徴は木を燃すことで得られる温かさと炎です。しかし、半面、固形の木質ペレットを燃料としますから、灰も出ればススも溜まります。従って、毎日の本体掃除はもちろんのこと、熱交換パイプや排気管の定期的なメンテナンスなしでは安心して使い続けることができません。



- ・ペレットストーブは毎日の灰掃除が基本です。安全に使い続けるために、必ず毎日掃除を行って下さい。また、熱交換室や排気管は定期的なメンテナンスが必要です。

安心、安全に使い続けるためにこまめに点検し、メンテナンスなしでは使わないで下さい。（年に一度は専門技術者による有償メンテナンスをお勧めします。）



- ・メンテナンスが不足しているとストーブが正常に機能しない場合があります。
- ・またメンテナンス不足によるストーブの保証、不具合については製品保証が利用できない場合があります。



- ・メンテナンスを行う前に必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

3-1 毎日のメンテナンス



- ・燃焼炉内の灰は原則毎日掃除して下さい。特に燃焼ポット(図1-1)の底面部にある小さな給気穴が灰でふさがっていると、点火時に点火できないことがありますので、毎回確認して下さい。



※ストーブが完全に冷えている状態で行って下さい。

- ・扉を開けて灰皿を取り、灰皿にたまった灰を取り除いて下さい。（図1-1）
- ・燃焼ポットを外し燃焼ポット内の灰やススを取り除いて下さい。（図1-2）
- ・燃焼室は専用掃除機などを使い灰やススなどを取り除いて下さい。
- ・燃焼ポット(図2-1)を取り外し、付属のヘラでこすり、開口部内の灰やススを取り除いて下さい。
- ・ガラスが曇っていたら濡れたぞうきんやティッシュで拭き取って下さい。

※ガラスが冷めている時にして下さい。

- ・毎日のクリーニングをした後、燃焼ポットを(図2, 3)のように設置し直し下さい。

※燃焼ポットがうまく設置されていないとストーブの性能が損なわれる可能性があります。

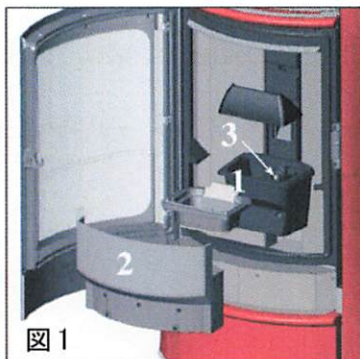


図 1

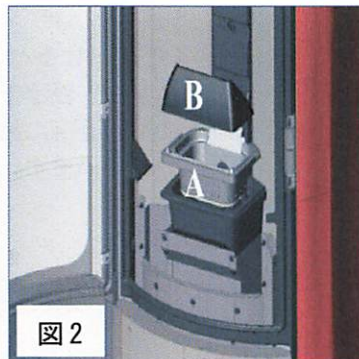


図 2

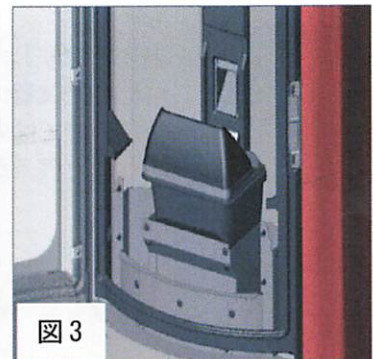


図 3

3-2 一週間に一度のメンテナンス

- ・天板のセラミックを外して下さい。
- ・クリーニングハンドル(図4-*)を10 回ほど上下して下さい。

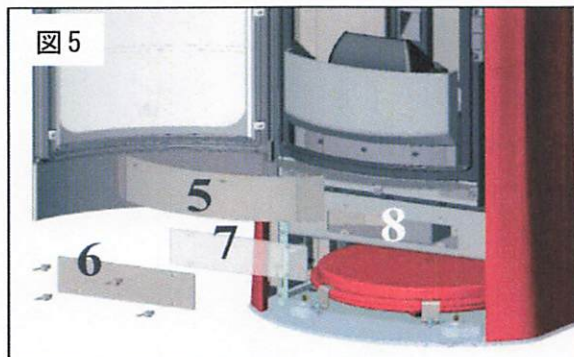


3-3 数ヶ月に一度のメンテナンス

- ・下部セラミック (図5-3) を取り外して下さい。そしてプレート (図5-4) を外して下さい。



- ・スチールプレート (図6-5)、蝶ねで固定されたプレートとそのシールガスケット (図6-6、7) を外して下さい。そして図6-8にたまっている灰やススを取除いて下さい。



※シールガスケットは予備が付属しています。

3-4 シーズンオフのメンテナンス

※販売店に依頼することをおすすめします。

- ・ ストープボイラーの内部、外装の基本的クリーニング
- ・ 熱交換パイプのクリーニング
- ・ 燃焼ポット、燃焼室内の灰やススのクリーニング
- ・ ファン類のクリーニング、配線の緩みがないか確認
- ・ 煙筒のクリーニング(煙突のシリコンガasketも様子をみて交換)
- ・ 膨張タンクの確認
- ・ 循環ポンプの清掃及び確認
- ・ 各安全装置の確認、配線の緩みの確認
- ・ 基盤電池の確認、交換
- ・ 着火ヒーターの動作確認、必要であれば確認
- ・ ペレットタンクのクリーニング
- ・ オーガモータの動作確認
- ・ 負圧センサーのシリコンホースのクリーニング
- ・ ドアシールの確認、交換

※もし毎日のストープボイラーの使用時間がとても長い場合、または灰が多く出る場合には3ヶ月に一度排気管の掃除をおすすめします。



- ・ 毎年ストーブのクリーニング及びメンテナンスを販売店に行ってもらってください。
- ・ 自分で行う場合は販売店で講習を受けて下さい。
- ・ 適切ではないクリーン及びメンテナンスは火災の原因になります。

確認事項 及び 注意事項 (重要)

設置と接続について



エディルカミン販売店技術者のサービスによる設置であり保証書、マニュアルがお客様に手渡されたことをご確認ください。



- ・FE式（室内給気）の場合は換気口が部屋にあること、または面積の狭い部屋でないことを確認して下さい。気密性の高い部屋に設置される場合は外気を給気するFF式の配管方法で設置して下さい。（詳しくは販売店にお尋ね下さい。）



- ・集合煙突は危険です。排気管1本に1台のみ設置して下さい。
（2台分の排気を1本の排気管にまとめることはしないで下さい。）



- ・排気管接続の基本は排気抵抗を少なくしてスムーズなドラフト（上昇気流）を発生させることにあります。エルボー管（曲り部）を使う場合は最大3曲り以内として下さい。



- ・排気管の水平方向への横引きは2メートル以上引かないようにして下さい。



- ・排気管は接続部に排気漏れ止めシールのついた金属製の排気管パイプであること。



- ・燃焼はペレット燃料以外のもの（例えば薪など）を燃やさないようにして下さい。

使用前の注意



- ・ペレット燃料は湿気が少なく、灰分の少ないペレット燃料（ホホワイト、全木ペレット）をお勧めします。日本各産地で作られているペレット燃料は、木の材質、圧縮度、サイズ（直径6mmと7mmのものがあります。）がさまざまで、すべて同じように燃焼するとは限りませんので、販売店が推奨するペレットをご使用下さい。むやみにペレット燃料の種類を変更すると、燃焼状態が変わり、場合によっては不完全燃焼、異常加熱を引き起こす可能性があります。



- ・毎回使用前には燃焼ポット内に灰がたまっていないか、または燃えきっていないペレットが残っていないか確認して下さい。もし残っている場合は掃除機などを使ってきれいに掃除をして下さい。



- ・正しい位置に燃焼ポットが置かれていること、ドアーが完全に閉まっていることを確認してからスタートボタンを押して下さい。

